

# 漁 況 海 況 予 報 事 業

村山達朗・安達二郎・田中伸和・北沢博夫

## 目 的

沿岸沖合漁業に関する漁況と海況とを調査研究し、その結果にもとづいて作製された速報ならびに予報を正確迅速に広報普及し、漁業経営の安定に寄与することを目的とする。

## 調 査 の 実 施 概 要

### 1. 海洋観測の種類と実施月 (付表に海洋観測記録及び卵稚仔査定結果を示す)

観測年月日	調査名	観測点	調査員
61. 4. 8 ~ 11. 14	沿岸定線調査	33※	田中伸和
61. 4. 30 ~ 5. 2	沿岸定線調査	35※※	村山達朗
61. 6. 3 ~ 7	漁場一斉調査	23	村山達朗
61. 7. 30 ~ 8. 2	沖合定線調査	20	北沢博夫
61. 9. 1 ~ 5	漁場一斉調査	32※※※	村山達朗
61. 10. 6 ~ 8	沿岸定線調査	20	北沢博夫
61. 11. 5 ~ 7	沿岸定線調査	20	村山達朗
61. 12. 9 ~ 10	ミニ定線調査	15	村山達朗
62. 2. 6 ~ 7	ミニ定線調査	15	村山達朗
62. 3. 11 ~ 13	沿岸定線調査	35※※	田中伸和

※補間点12点を含む。※※補間点15点を含む。※※※補間点8点を含む。

水温・塩分検定：村山，卵稚仔同定：北沢，生物調査：安達・田中・村山

2. 観測定線 図1に示す。

### 3. 調査項目

観測層 0, 10, 20, 30, 50, 75, 100, 150, 200, 300m深

観測項目 水温，塩分，卵稚仔，気象，海象，釣獲試験

#### 4. 調査船・観測機器

調査船 島根丸 (139,06トン、770馬力)

観測機器 ナンセン採水器・サリノメータ (オートラブ社)・防圧転倒温度計・DBT (環境計測システム)・測深器 (油圧式3.7馬力 1,500m)・魚群探知機 (古野電機)

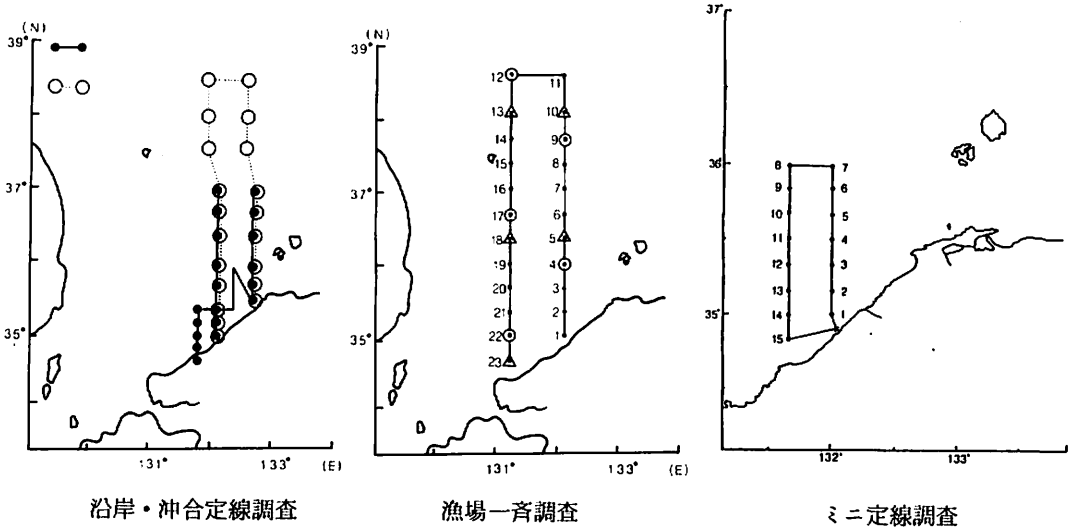


図1 観測定線

#### 調査結果の概要

昭和61年4月から昭和62年3月までの浜田沖北方断面の水温分布および、平年差を図2～11に示した。各月の海況の概要は以下の通りである。

4月：平年と比較すると、距岸110mileのSt. 7付近の海域が平年並を示している以外は、沿岸部で $1^{\circ}\text{C}$ 、沖合域では $2^{\circ}\text{C}$ 前後低くなっている。この低温傾向は、昭和60年12月頃より続いているものである。

5月：先月と比較すると、全般的に約 $2^{\circ}\text{C}$ の昇温がみられた。平年差は、沖合部ではまだ $2^{\circ}\text{C}$ 以上低めの所がみられるが、距岸70mileまでの沿岸部は、ほぼ平年並にまで回復してきている。

6月：先月に比較して、沿岸部では $2\sim 3^{\circ}\text{C}$ 、沖合部では、 $6^{\circ}\text{C}$ 前後上昇した。平年と比較すると、沿岸部はやや低めだが、距岸60mile以上の沖合域は、100m層を中心としてかなり高めとなっている。これは、山陰西部の水塊配置が、川尻岬沖の冷水域と隠岐島北方からの冷水の差し込みの間を暖水が北上する形となっており、このため、浜田沖合の水温が急上昇したためと思われる。

8月：平年差は、一部を除いて $\pm 1^{\circ}\text{C}$ 以内であり、ほぼ平年並の様相を示している。

9月：8月上旬と比較すると、50m以浅の表層域は停滞ないし降温し、50～100m深の中層では2

～3℃の昇温がみられ、秋型の海況への移行が認められる。平年差は、50m以浅の表層域は、ほぼ平年並となり、また、沖合の中層域は平年より5℃以上も高めの海域が認められる。

10月：9月上旬と比較して、沿岸部の表層は3℃近く降温したが、中層および沖合域は、ほとんど降温はみられない。平年差は、距岸50～70mileの海域は2℃近く低めであるが、他の海域は、平年並みか、高めとなっている。

11月：平年と比較すると、沿岸域は全層で、沖合域も50m、以浅の上層域では、平年並かやや低めとなっているが、距岸80～90mileの沖合中層域は、かなり高めとなっている。これは、対島海流系の暖水が浜田沖を北上していることによると考えられる。

12月：11月上旬より、100m以浅では2℃低度降温した。平年差は全般に+1～-1℃で、ほぼ平年並となっている。ただし、海底近くの踏層は、距岸20mile付近にみられ、底部冷水は接岸傾向にある。

2月：12月上旬より、全般に4℃低度降温している。海底付近の踏層は、距岸40mile付近に認められ、12月上旬と比較すると、底部冷水は離岸傾向にある。距岸50mile以上の海域では、中層が平年より2℃程度低めではあるが、表層および沿岸部は、平年並か1℃程度高めとなっている。

3月：2月上旬より2℃程度降温し、年間の最低水温期に入った。平年差は、全域で0～+1℃で、平年より高めとなっている。

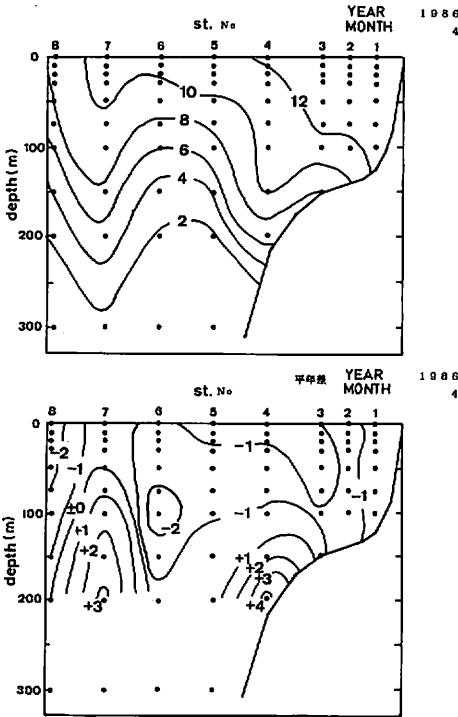


図2

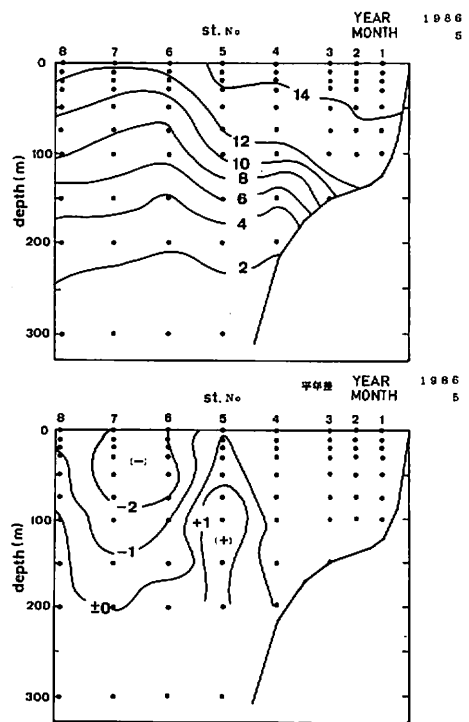


図3

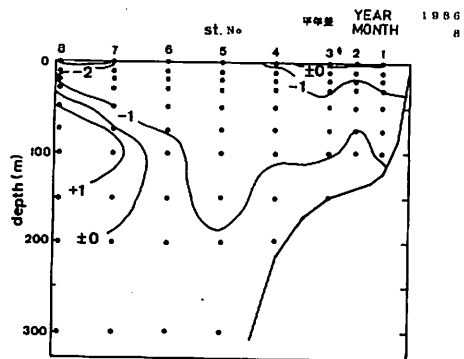
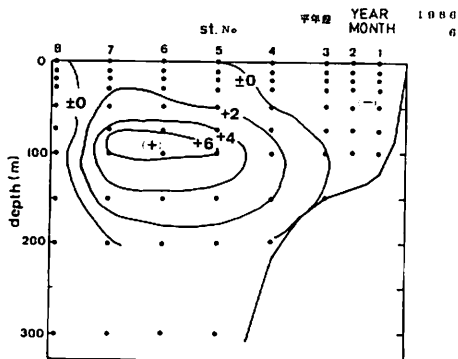
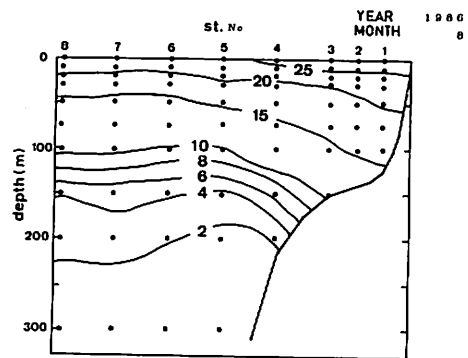
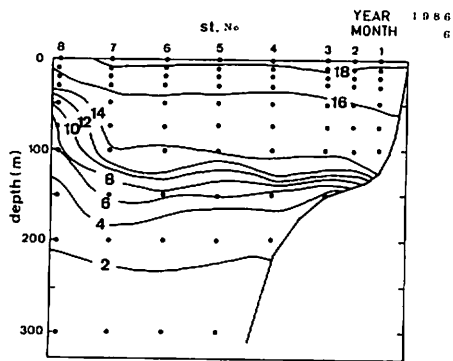


图4

图5

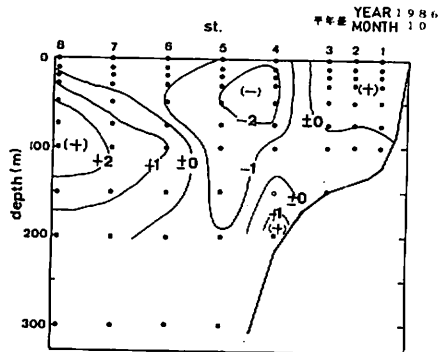
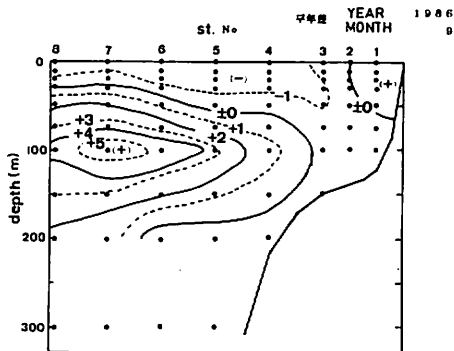
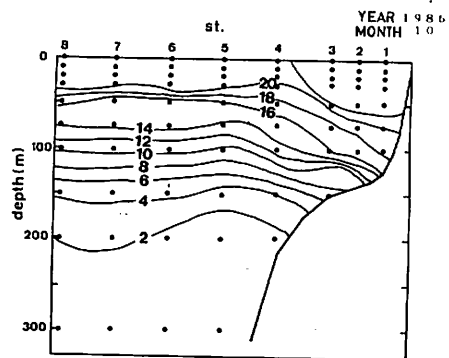
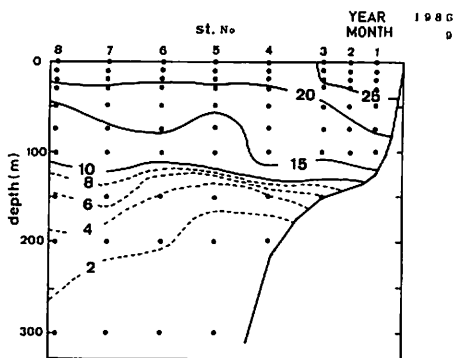


图6

图7

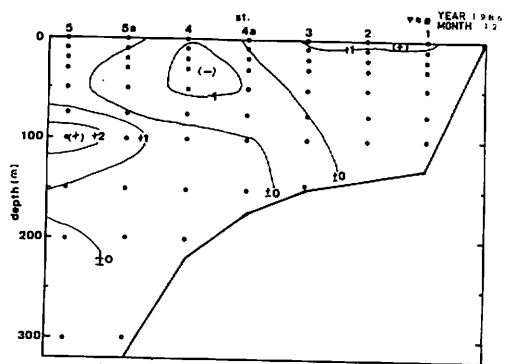
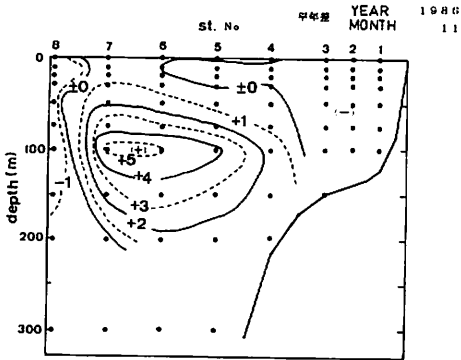
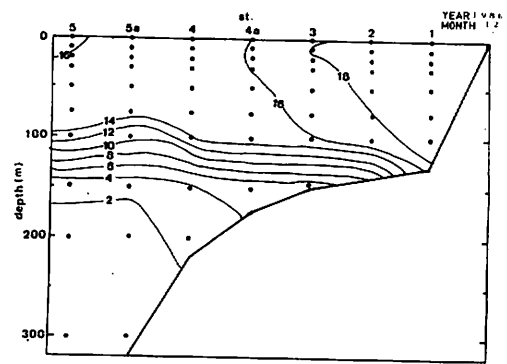
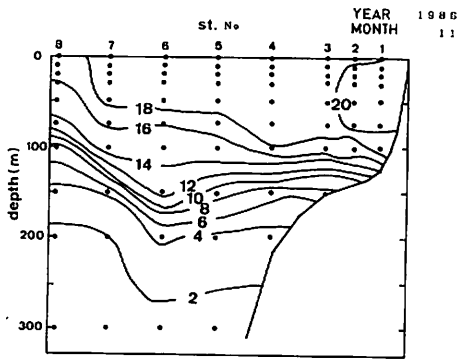


图 8

图 9

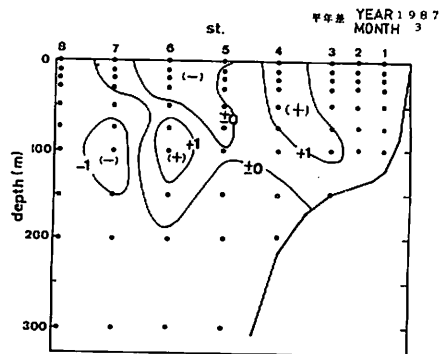
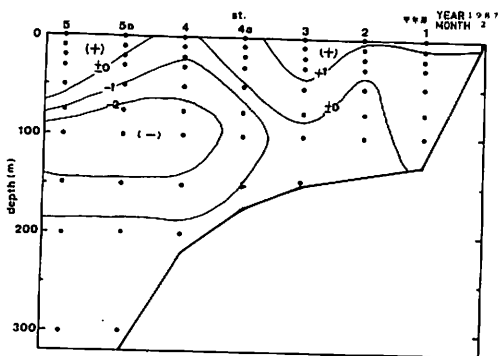
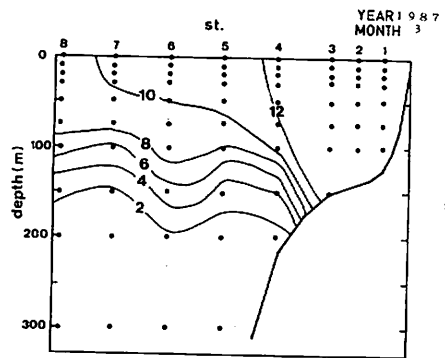
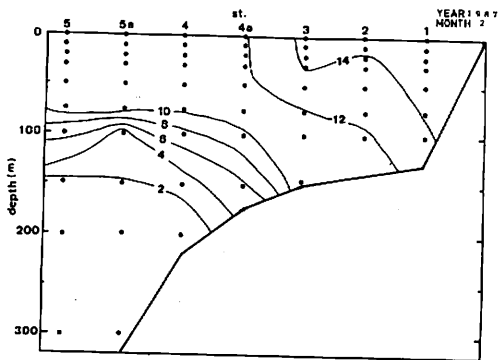


图 10

图 11